

## 令和4年5月21日 経済環境委員会

### 本市の食糧自給率向上のための取組強化を

問 ロシアのウクライナ侵攻により、世界的に小麦の供給が滞っております。小麦の85%を輸入に頼るわが国では、小麦価格も高騰し、国民の生活にも大きな影響が出ております。その意味で、食糧安全保障の観点からも、これからは国だけではなく地方都市も食糧自給率向上にさらに努める必要があるものと考えます。わが国の食糧自給率は37%と低い水準にありますが、本市の食糧自給率は、国の地域食糧自給率試算シートで試算しますとカロリーベースで約6%とさらに低い水準にあると伺っております。少なくとも、本市の食糧自給率を現在の国のレベルまで引き上げる取組を推進すべきだと思いますが、御当局のお考えを伺います。

答 経済局農林部参事 本市では、これまでJA仙台などと連携して生産の拡大に取り組んでおります。本市の推す水田を活用して、米をはじめ麦、大豆、さらに昨年は家畜の飼料用の米と生産の拡大に取り組んできております。今後も、今年度より県内においては家畜飼料用の子実用トウモロコシ、デントコーンの栽培が始まっています。食糧自給率向上に向けて、さらなる施策の充実強化を図ってまいります。



令和4年4月27日 委員会市内視察 八幡宮碑



令和4年4月27日 委員会市内視察 広瀬橋

## 令和4年9月5日 歴史まちづくり調査特別委員長報告

第3回定例会初日に、歴史まちづくり調査特別委員会委員長として、この1年間の委員会活動報告をいたしました。この委員会は、特色ある歴史資産を活用した戦略的まちづくりに取り組み、都市の魅力と個性を発揮していくために必要な諸施策の推進を図る事を目的に設置されました。前の委員会において広瀬川中流域を、そして今委員会では広瀬川下流域に位置する歴史資産について市内視察を実施しました。調査の中では、それぞれの歴史資産とその歴史的背景や、現在置かれている状況、地域で保存活動等を担っている方々の存在など、一つ一つの歴史資産にまつわるエピソードやその地域でどのように親しまれてきたのかを知る機会を得る事ができました。しかし、地域で歴史資産を管理、保存する活動を行なっている団体で、保存について悩みを抱えている、あるいは活動者の高齢化や後継者不足といった課題があることから、そのことで、本市にしかない歴史資産が風化し、その存在が知られないまま朽ちてしまうおそれがあります。今後は、歴史資産自体や周辺環境の情報を得ながら、地域で現在行われている保存活動を支えられる仕組みづくりが必要です。また、観光分野における活用としては、地域の歴史資産同士の関係性を辿るような旅や一定のテーマを持たせた散策コースの創出などを提案いたしました。今後、次の委員会において広瀬川上流域の歴史資産調査を予定しており、この調査の後に広瀬川流域にある歴史資産の保存、活用等についてまとめた上で、委員会として提言できればと考えております。